

県から個人住民税等整理回収チームを受け入れ



▲辞令交付を受ける兵庫県の個人住民税等整理回収チームのメンバー

市税等の滞納防止・徴収率アップ等のため、市は兵庫県の個人住民税等整理回収チームの派遣受け入れを行い、4月11日に回収チームに対して辞令交付が行われました。整理回収チームの受け入れは平成19年度から行われており、通年実施されるようになって22年度と23年度で合わせて100件以上の滞納事案を処理しました。整理回収チームは、平成25年3月31日までの間、市と共同で高額滞納事案等の滞納整

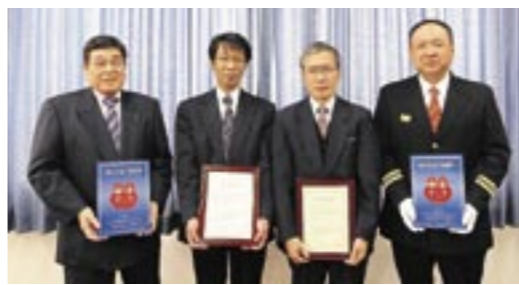
理を行ったり、市に対する助言などの支援を行います。昨年度も処理困難事案を中心として納税交渉の強化、財産の差し押さえ等に加えて、市では初の取り組みとなる不動産公売の実施なども行いました。また、差し押さえで引き揚げた動産などはインターネットで公売を通じて販売され、売り上げは滞納税に充てられています。インターネット公売の案内やガイドラインは市ホームページに掲載されています。

消防団協力事業所へ表示証の伝達式

災害時に地域防災を支える消防団の活動はますます重要性を増しています。しかし、消防団員の約7割が被雇用者という状況のなか、消防団員の入団や活動に対する勤め先の理解と協力が必要です。そこで総務省消防庁では「消防団協力事業所表示制度」を導入し、消防団活動に協力する事業所に対して表示証を交付しています。今回、淡路島酪農業協同

組合、(株)南兵庫クボタ、理研化学工業(株)淡路工場に表示証が交付されました。

3事業所においては消防団員が相当数入団しており、火災時の出動が出勤扱いとなるなど消防団協力事業所の認定基準に適合しているためです。4月13日に表示証の伝達式が行われ、業務により出席できなかった理研化学工業(株)淡路工場を除く2事業所に表示証が手渡されました。



▲表示証を受けた淡路島酪農業協同組合の喜多茂之さん(中央左)と(株)南兵庫クボタの川崎章弘さん(中央右)

3事業所に交付

交通安全祈願祭



▲警察の協力を得ながら、交通安全協会のメンバーらが交通安全を呼びかけました

戦没者追悼式

恒久平和を誓う

中山峠のいこいの泉において4月6日、交通安全祈願祭が行われました。神事や通行するドライバーに対する呼びかけなどで市民の交通安全を祈願しました。

最初には神事が執り行われた後、交通安全協会によって作成された、事故に対する注意を呼びかける交通安全かわらばんとミニ草履を配布しながら、通行する車両に対して交通安全を呼びかけました。

過去の戦争で戦地に赴き尊い犠牲となった2499人を悼む「南あわじ市戦没者追悼式」が、4月7日、文化体育館で行われました。遺族ら約410人が列席して一人ひとり献花を捧げ恒久平和を祈念しました。式典で中田市長は、「戦争での大きな犠牲の上に今の日本があることを忘れず、後世に正しく伝えることが大事である」と式辞を述べ、市遺族会の浦瀬昌人会長は、「戦争の恐さ、悲しさを風化させな



▲式壇の標柱に向い献花を捧げ、静かに手を合わせて恒久平和を祈念しました

福良備前町に広場を整備



▲広場の中央に照明灯が設置されています

福良地区では、備前町を福良の安全安心なまちづくりのモデル地区として避難路や広場の整備を進めており、この度広場が完成しました。この広場には、太陽光電池によるLED照明灯が設置され、災害等による停電時にお

防犯ブザー配布

市内17校の小学校で4月10日、入学式が行なわれ、新1年生427人全員に防犯ブザーが配られました。子どもを狙った事件が全国的に多発している今日、防犯ブザーで難を逃れたケースも数多く報告されています。子どもを守るためには、こういった物にも増して地域全体で見守ることが何より大切です。



▲新消防団長の榎本一博さん

新消防団長就任

榎本一博さん(阿万)が4月1日、新たに市消防団長に就任しました。任期は26年3月31日までです。※新幹部は12頁に掲載



▲防犯ブザーを手に微笑む児童たち

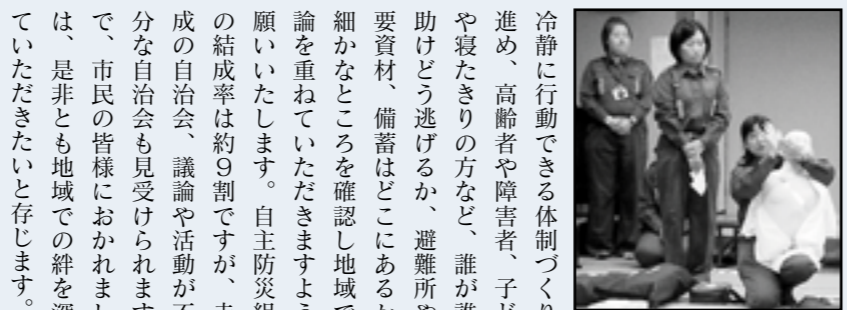
ふれあい市長室

大震災大津波に備えた自主防災組織活動の充実を!

南あわじ市長 中田勝久

新年度に入り、東日本大震災の被災地、宮城県南三陸町の復興を支援するため、南あわじ市から職員1名を1年間派遣しました。今まで1週間前後の短期間、24名を派遣してまいりましたが、長期にわたる派遣は初めてです。希望者を募ったところ、居内昭人君が「様々なことを経験し、南あわじ市の役に立つ職員となつて帰ってきたい」として積極的な申出があり、市長として大変心強く誇りに感じています。

今年度は、防災活動研修の一環として、5月16日〜18日に市内の津波被害が特に心配される自主防災組織の代表40名程度が、南三陸町を訪問し被災現地での生の姿を視察して研修を行います。私も同行する予定です。東南海・南海地震が30年以内に60%〜70%の確率で発生すると言われています。県の暫定的な想定や内閣府有識者会議の発表では、津波高が当初予想の約2倍となっています。



▲救命講習

繰り返し申しておりますとお



▲自主防災組織学習会の様子